エコニュース さって

第８２号
令和元年 8 月 13 日
さって市民環境ネット
TEL 48-0331

「中川探検ウォーク」に参加して

報告：　藤城

５月１３日（水）令和元年度第１回市民環境講座「中川探検ウォーク」が行われた。今回のテーマは「外来植物を探してみよう」、講師は「NPO 法人とよあし原」の山本氏。暑くも寒くもなく、爽やかな良い天気に恵まれ１２人の参加者は、9:30 東公民館を出発。まずは中川堤の東公民館側を宇和田公園に向けて歩く。例年４月下旬に行うが今回は５月中旬という事で草丈も伸び、いつもと違う様相。すぐに目立つのは、イヌムギ、ネズミムギ、カラズムギなどのイネ科の外来種、家畜の飼料として入ってきたものが、繁殖している。ヨーロッパなどでは「畑の強雑草」と呼ばれ厄介者となっている。土手の大きなエノキの木の下はカラスムギの銀青色の葉が風にゆれて大きな群落となっている。乾いた所が好きらしく他の植物の姿はない。

爽やかな季節の中での中川探検ウォーク

次に目についたのはヘラオオバコ。山本先生から「ダッタン人の帽子」と呼ばれていると教えていただいた。花穂は長い茎の上の円すい形の穂に白い小さな花がたくさんついて風にゆれる様子に参加者から「かわいい」の声があがる。今はやりのガーデニングに利用したいくらいだが、強い繁殖力で日本のオオバコを隅に追いやる勢いだ。足元をよく見ると思っていたより外来種が多いのに気づく。最近急速に増えてきたセイバンモロコシの小さいのが目につく。道端のアスファルトのすき間にも生え、道路や畦道、河原にも群落をつくるようになってきた。欧米では「強害雑草」と恐れられている。葉はススキの様で、穂はモロコシに似ている草で、丈が 50cm から 2m 程まで伸び、根茎で強力に横に張ってゆくので退治するのが大変なためだろう。早いうちに何とかしないと日本の風景まで変わってしまうのではと心配だ。

笑顔が絶えない参加者の皆さん

宇和田公園は「日本の公園の父」と呼ばれる本多静六博士、その本多博士がおばあちゃんに「幸手にも公園を」と言われて設計した所。桜、もみじ、かやなどの大木が涼しい木陰をつくり、ここで昼食。本多博士は将来を見すえて公園を造るので有名だが、予想したようになっているだろうか。

春の桜ともみじの新緑、夏の涼しい緑陰、秋のもみじの黄葉と一年を通して楽しめる場所だが、利用者が少ないのが残念。私が小学生の頃は遠足にも行き、東の筑波山、西に富士山と見晴らしよく眺めたことを思い出す。100年を越す大木も多くぜひ出かけて欲しい。

帰り道に宇和田集会所前の庚申塔を見学。江戸時代に立てられた塔は、仏様の姿も美しく立派なものが立ち並ぶ。地元の方の話によれば、昔からのお嫁さんの寄り合いや災い除けのワラの大蛇づくりなど今も行われているとの事で、幸いにもワラの大蛇が道端に飾ってあるのもみられた。

朝9時30分から4時間程の散策で自然探検と共に中川の由来や江戸川の水運、宇和田公園の石碑に書かれた幸手の水害の歴史、地元の庚申塔や今も続いている古くからの行事などいろいろ学ぶ事が出来たのは思いがけない収穫だった。私たちの身近にある植物も時代と共にどんどん変化し、外来種が増え、在来種はますます減ってゆくことが予想される。このまま見ているだけで良いのだろうか？　と考えさせられた。今回の参加者の多くが、団塊の世代で、「昔は学校帰りにスカンポを食べたり、花の蜜を吸ったりしたね」と懐かしい話に花が咲き、五月の爽やかな風に吹かれながらの楽しい散策は終了した。

今年も「エコライフDAY」を行います

報告：　藤城

今年も「エコライフDAY」が７月に実施されることになり、５月２３日に市役所に於いて「エコライフDAY宣言式」が行われました。市長さんからは「今年も本事業を通して、少しでも多くの方々に地球温暖化に対する危機感を持っていただき、二酸化炭素削減のために取り組んでいただけるよう切に願っています。幸手市一丸となって、今年の夏もエコライフ DAY を推進してまいりましょう。」と発言していただきました。また、同じく市長さんからは、今年度の「エコライフDAY」における二酸化炭素削減目標値を5,000kg（昨年度 4,717kg）とするとの力強いコメントをいただきました。

市長とともに　エコライフDAY宣言式

５月２１日には、山西教育長さんにも、さちネット久保田会長他２名で、例年同様市内の各学校の先生方、児童、生徒の皆様にアンケートにご協力いただけるようお願いに伺い、快く了承いただきました。

近年の気候変動は身をもって感じる程になり、日々の生活の中でいかに二酸化炭素を減らしてゆくかが課題となっています。大人はもちろん、これから育っていく子供達もしっかり自覚して生活習慣にしてゆくことが大切との考えから「エコライフDAY」を行うものです。毎年たくさんの小学生、中学生とそのご家族、高校生、大学生、市内の企業にお勤めの方々に参加していただいています。

私たちの生活の中で、無理なく出来る事や、少し努力すれば出来る事で二酸化炭素がこれだけ減らせると数字で実感できる様なアンケートです。地球のために、そして次世代のためにもエコな生活を目ざしてみませんか。毎年７月に市内の各公民館にもアンケート用紙が置いてありますので多くの皆様の御参加をお願いいたします。

「ホウネンエビ観察会」を実施しました

報告　福田

５月１９日（日）例年と同じ時期の５月の第３週に行った。今年は、地域の行事等と重複しないように、土曜日開催から日曜日開催に変更し、会場の西公民館にて、観察会用の器材をテーブルに並べて、会場作りをおこない、千塚地区の水田に向かった。

ホウネンエビの採取 童心に戻る参加者

水田に着くと全員でホウネンエビの採取を始めた。南風が少し強く、水田の表面は浮遊物で一杯であった。その浮遊物を除けながら虫取り網で採取し始めると、子供が２名とご近所の住民３名が参加してくれた。

１時間ほどで水田を周り、全体を観察した。生育数的には前年度並みと思われた。毎年この水田に大量に発生するのは、畔がコンクリート製で草が生えないため、他の水田より除草剤量が少ないのが一因かもしれない。

凡そ２～３百匹を水槽に入れ西公民館に持ち帰った。ミルソーや双眼実体顕微鏡で観察した。今年は小さなミジンコに混じってホウネンエビの赤ん坊（生まれたて）が多数観察出来た。その泳ぎはまるでクリオネの様だ。

ミルソーの中で泳ぐホウネンエビ

参加された『広報さって』のメンバー（写真班）の方は、ホウネンエビを初めて見た様子で、少し驚いていた。女性のスタッフが、西公民館の会場利用者（趣味の活動グループ）に、ホウネンエビの観察会を行っていますので、見たことがない人もある人もご覧下さいと声掛けを行うと、数名の方が参加し賑やかになった。

これ迄の調査から、高須賀地区、神扇地区、東３区にも、同じ水田に毎年同じ様に大量に発生する。ホウネンエビが発生すると豊作になると言われる。もっと多くの人に、ホウネンエビが生育する希少な自然を知っていただき、その自然を大切にして欲しい。

「学校出前講座」を実施しました

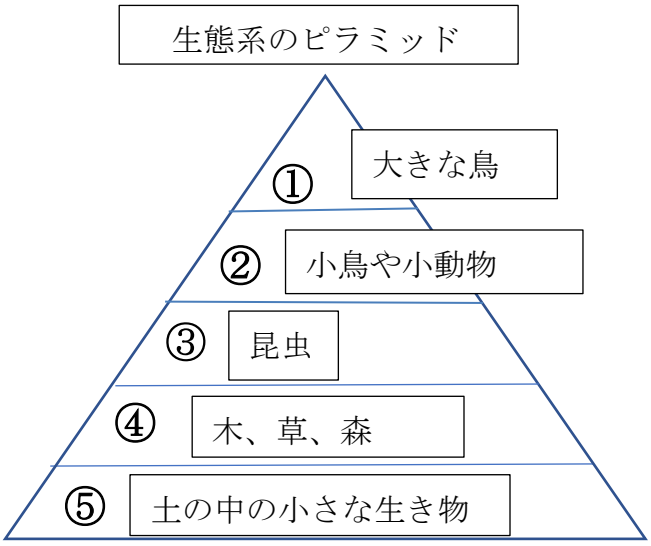
報告　坂本

恒例となっている幸手小学校への出前講座を 5 月２２日に実施しました。さって環境ネットのメンバーと４年生の子供たち５０人とのホウネンエビ観察、植物観察です。

ホウネンエビ観察の方は、NHK の学校向け教材、ミクロワールド「豊年を招くホウネンエビ」をビデオで見て、ホウネンエビがどんなところで生まれ、どう生き、どう子孫に繋げていくかを学習した後、生きているホウネンエビを見たり、触ったり、子供たちははじゃいでいました。

植物観察の方は、次のように学習しました。

「何だ、こりゃ!!」顕微鏡で初めてヘビイチゴを見た４年生の児童と先生の第一声です。
つやつやと赤く輝くヘビイチゴはゴマ粒の様なものが自分に向かって立っているように見えるゾ！　本当にビックリさせられます。オオバコの花もタンポポの綿毛も、ドクダミの花も「こんなふうになっているのか！　きれいだな！」と不思議な世界をのぞき込むように見入っていました。何げなく見ている身近な植物も顕微鏡で見ると思いもかけない姿、形で迫ってくる。「びっくりした！　驚いた！」そんな体験をして欲しくてやっている出前授業ですが、子供も大人もビックリは共通です。「びっくりした！」が身近な物に興味を持つきっかけの一つになってくれるとうれしいです。



左の図は生き物の世界をピラミッドの形で表しています。　大きな循環の輪の中で動物も植物も関わり合って生きています。　小さなミミズ、バクテリアから大きな鳥までそれぞれに役割がありどれが欠けてもバランスが崩れて大変なことになります。　私達人間も生態系の一員です。　良い環境が残せるよう考えて行動しましょう。

⑤ 土の中のミミズやバクテリアは落ち葉を分解して栄養のある土にする。
④ 木や草はその土の中に根を張り、花を咲かせ実をつける。
③ 昆虫は花の蜜や花粉を食べ、木や草の受粉を助ける。
② 小鳥や小動物は昆虫や木の実を食べ、種を遠くまで運ぶ。
① 大きな鳥は小鳥や小動物を食べるが、死ぬとバクテリアに分解され土に還る。

【会員募集中！】環境保全活動を一緒にやっていただく方を募集しております。是非、貴方も参加しませんか。〔さって市民環境ネット〕★問合わせ先；久保田　修（代表）まで ＴＥＬ　0480-42-1264

幸手の環境活動グループ：幸手権現堂桜堤保存会、権現堂川地域環境保全協議会、幸手自然愛護会、幸手ひがし幼稚園、エコ・グリーン幸手、くらしの会、上高野婦人会、倉松探検隊、幸手中央ロータリークラブ、すこやか「食」の会、子育て支援ねっとわーく、いきがい・はなみずきの会(いきがい大学伊奈学園２０期)